

十勝岳

1 概況

62-2 火口では活発な噴煙活動が続いています。地震活動は静穏に経過しました。

2 地震活動の状況

地震は少なく 1 日あたり 0~5 回で推移しました。火山性微動は 6 月 16 日以降観測されていません。

月別地震・微動回数

2002~2003年	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
地震回数H点	28	113	96	47	54	93	58	39	44	60	24	35
地震回数A点	11	21	13	15	11	15	16	9	18	14	9	9
微動回数H点	0	1	0	0	0	0	2	0	1	2	2	0

3 噴煙活動の状況

62-2 火口では活発な噴煙活動が続いており、噴煙高度は概ね火口上 100~200m で推移しましたが、時々噴煙量が少なくなることもありました。

4 調査観測の結果

7 月 21~26 日に調査観測を実施しました。62-2 火口では高温状態が続いています。

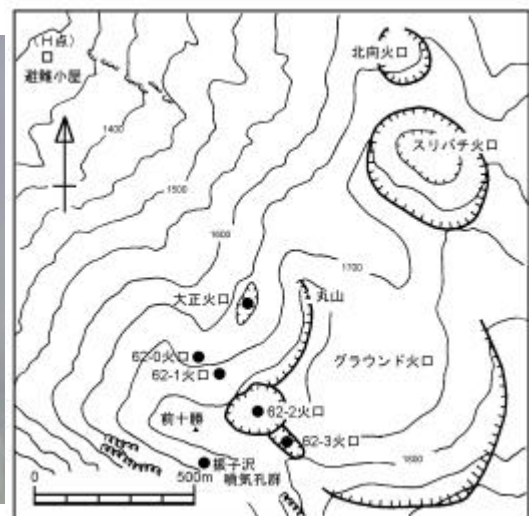
【62-2 火口】

火口内の北側から西側にかけて多数の活発な噴気孔があり、刺激臭を伴う火山ガスを噴出しています。赤外放射温度計*により、北西側火口縁から測定した最高温度は 327 (測定距離 40m) と依然高温を維持しています。

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できますが、噴煙や霧で対象が見えにくい場合や、熱源から遠く離れるほど実際よりも温度が低く表示されます。また、同じ温度でも物体により放射の程度(放射率)が異なるため、その設定で温度が変化します。火山観測では一般に、地面や岩石などの放射率 0.9~1.0 に設定しています。



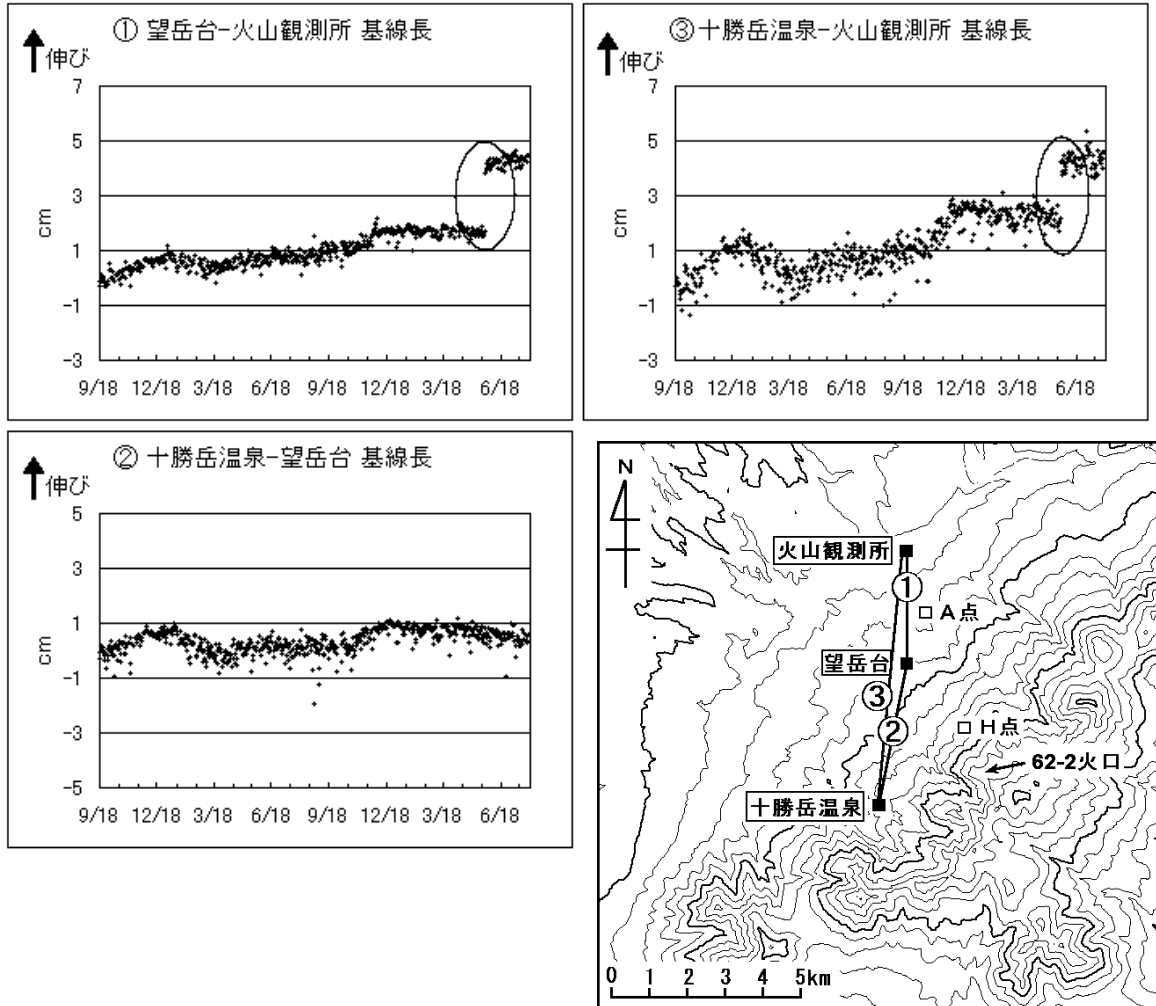
62-2 火口北西内壁の噴気孔 (2003 年 7 月 24 日)



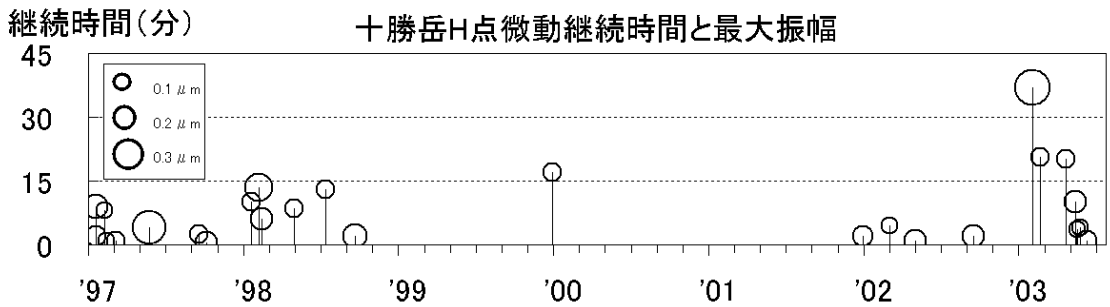
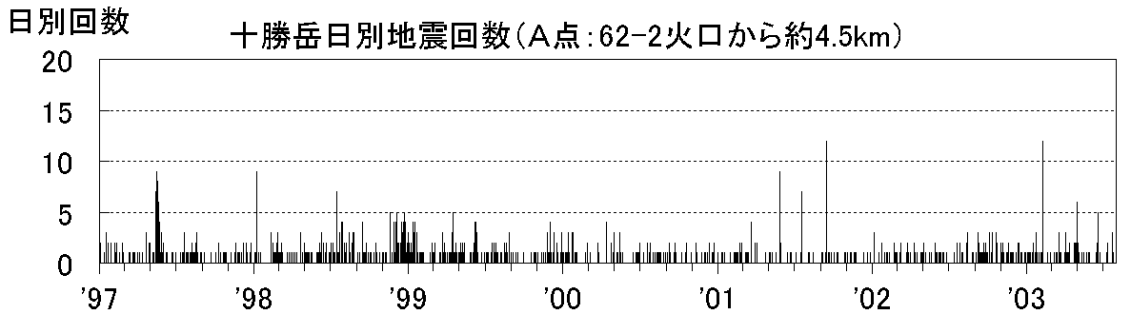
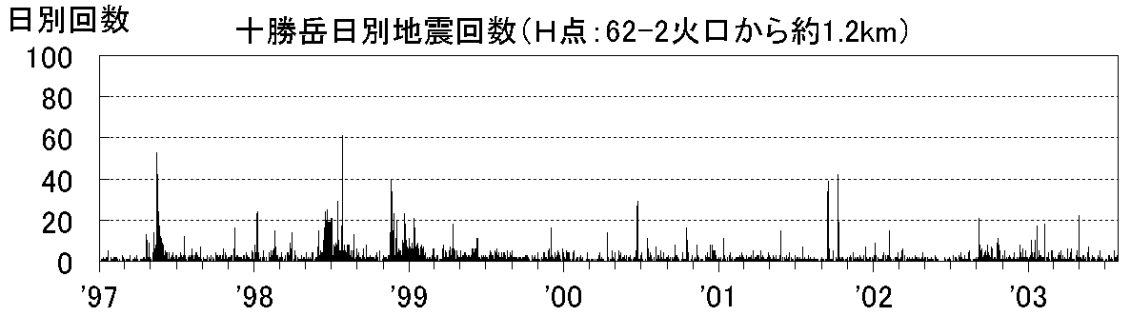
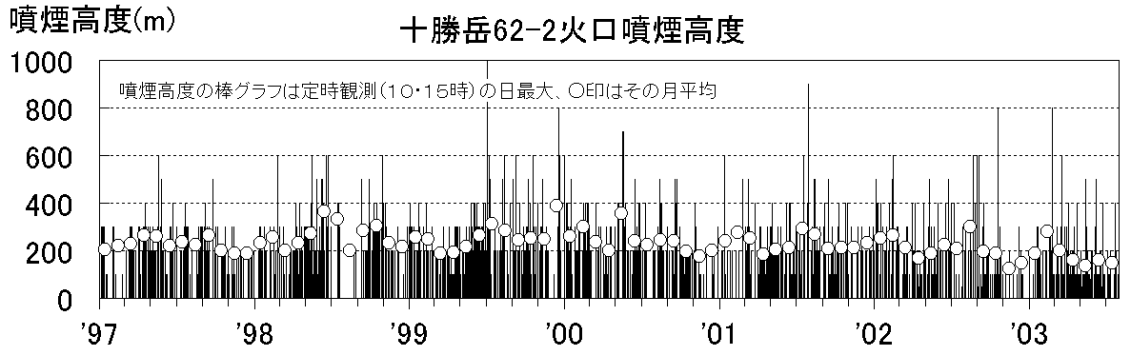
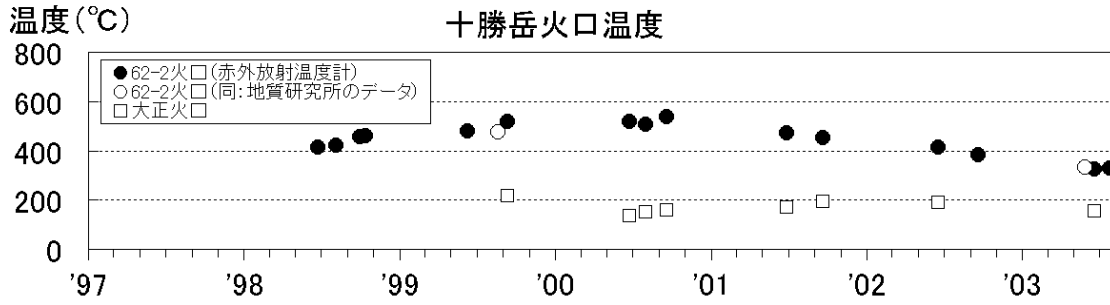
十勝岳火口周辺図

5 地殻変動の状況

GPS観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません。この基線長に5月24日頃見られた不連続な変化(図中印)は火山観測所の局所的な変動です。



十勝岳基線長変化(2001年9月18日~2003年7月31日)



十勝岳火山活動経過図(日別、1997年1月1日~2003年7月31日)